香葉

第13号

通算44号

関東学院女子短期大学
香葉会
発行人　山口佳子
代　表　横浜市金沢区
六浦東1-50-1
直通・FAX　045-787-0678
E-mail:kouyoukai@nifty.com
URL http://koyokai.shonan.cc

香葉会のみなさまへ

燦葉会支部総会に参加しませんか？　近年各地で開催される燦葉会の支部総会のご案内を燦葉会のご厚意で香葉会員にもお送りしています。地元で学生時代の思い出を語り合う機会です。
香葉会のホームページでもご案内していますのでぜひご覧ください。

※各企画の申し込みはFax・Eメール・往復ハガキで香葉会事務局までお願いします。

交流会（室の木に集まって！）

パイプオルガンの伴奏で讃美歌やクリスマスソングを歌いましょう。
山口会長の朗読も聴けるかも…?! などなど、ただいま調整中ですのでお楽しみに♪

●日　時　11月21日(土) 13時～15時
●集合場所　HPでご確認ください
●参加費　1,000円（茶話会含む）
●〆　切　11月12日(木)

クリスマス小物づくり講習会

昨年はマカロニでクリスマスリースを作りました。
誰でも簡単に作れるのに、見栄えもするものが出来ました。
今年は…思案中！お楽しみに。

●日　時　11月11日(水) 10時～
●場　所　香葉会室
●参加費　1,000円（材料費等）
●持ち物　エプロン・タオル
●〆　切　10月28日(水)

ビーズ講習会〔講師　高石和枝（国4）〕

リボンにビーズ刺繍をしてお好きなバッグにつけてオリジナルバッグに仕上げましょう。

（昨年の作品）

●日　時　10月31日(土)
13時～16時
●場　所　関内メディアセンター
●参加費　3,000円
●持ち物　糸切はさみ、眼鏡(必要な方)
●〆　切　９月24日(木)（先着10名）

生麦事件参考館～キリンビール横浜工場見学

地元の方が私費で1,000点もの資料を集めたという「生麦事件参考館」を見せていただきます。昨年５月に閉館されている施設ですが、見せていただける貴重な機会です。
その後ビール工場の見学を予定しています。

●日　時　10月10日(土) 10時～13時
●集合場所　京急生麦駅改札
●参加費　1,000円（資料・保険代込等）
●〆　切　９月16日(水)（雨天決行）

山手西洋館散策〔ガイド　椙木（あべき）勇（いさむ）（元短大講師）〕

毎年恒例の椙木先生のガイドで歩く山手のクリスマスです。今年もシーバスでの夕方のクルーズ（希望者のみ）を予定しています。去年は思った以上の景色に出会えました。

●日　時　12月５日(土)
13時～16時
山下公園～横浜駅東口クルーズ(16時30分頃乗船予定)
●集合場所　元町公園バス停前（エリスマン邸前）
●参加費　1,000円（資料・保険代等）
●〆　切　11月25日(水)（雨天決行）

第７回　香葉賞

2015年３月24日(火)、人間環境学部卒業謝恩会の中で香葉賞（賞状・記念品）授与がおこなわれました。
受賞者の笑顔が印象的でした。

香葉会のホームページを見てみませんか？（http://koyokai.shonan.cc）

「香葉会」で検索してみてください。学校の様子や企画のご案内・過去の“香葉”も見ることができます。

会長挨拶

山口　佳子（国1回）

皆様　こんにちは。

今年度室の木校地に新しく、栄養学部・教育学部の二学部が開設されました。

短大家政学部食物栄養学科―人間環境学部健康栄養学科―栄養学部としてまた短大幼児教育科―人間環境学部人間発達学科―教育学部となりました。

二学部とも国家資格を踏まえた専門性を身につける学部です。

林　淳三元学長の著書「関東学院の女子教育」―女子短大の存在と私―をお読みいただきますとかつて目指した女子大学構想があったこと、また女子教育には女性の特性を助長する機能があることが書かれ、専門性を身に着ける大切さをうかがい知ることができます。両学部長に開設のご挨拶をいただき掲載させていただきましたので、どうぞご覧下さい。

大学の同窓会誌「さんよう」に香葉会の活動を掲載させていただくようになり発行日に合わせて例年九月一日発行を一か月早めてこの「香葉」も十三号から八月一日発行となりました。大学同窓会の方の企画への参加も大歓迎です。

昨年の企画にご参加くださった方々、卒業生通信等寄せられた文を読ませていただいていますと、皆様の多彩な活躍をお伝えできることの幸せを感じております。

ホームページに最新情報をのせていますので「香葉会」と打っていただきご覧いただきたいと思います。

また大学燦葉会支部への香葉会員の会合参加も積極的にお願いしています。今年度の支部の会合日を載せていますのでぜひご参加ください。

林元学長の著書「関東学院の女子教育」は、香葉会にて販売させていただいております。

ご連絡ください。

家政科の井口安喜子先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

先生のご子息様より感謝の献金を頂きました。

助手として活躍された相吉（旧後藤）さんに先生の思い出を語って頂きました。

恩師　井口安喜子先生

相吉典子（家政10）

昭和三十六年三月、関東学院女子短期大学を卒業する時期が近づいた折、自分としては四年制大学への編入を考えていた時、井口先生より「私の助手に成りませんか？」というお誘いを頂きました。理由としては助手という仕事は大変かも知れないが、実力をつける意味では将来はるかに役立つことが多いので、出来れば是非やって欲しいということでした。将来役立つときが必ずあるというお言葉に勇気づけられ、色々考えた結果、桧垣先生・鳥越先生ともで相談させていただき、相当の覚悟と苦労をもって決めるようにとご忠告をもいただき、決心の上、相川先生、安藤先生、大河原先生、兵藤先生の面接を経て、井口先生の助手第一号になりました。

助手になってからは学生時代には考えられないような立場で色々の仕事があり、立場も微妙なものがあり、リトリートやその他の学校行事にも参加させていただき、今まではわからなかった様な様々な体験も多くありました。すべてが勉強と割り切って一生懸命勤めさせていただきました。青春時代に全身で当たった多くの仕事、勉強は、今考えると本当の成長の基礎を築かせて頂いたと感謝しております。

調理室は、当時古い校舎（八号館）のなかにあり、食堂の裏口で暗く、最悪の環境でした。

助手の第一の仕事として、先生の授業の事前準備と、実習のための諸材料の支度、器具の調達、そして授業の後の片づけ。細かい事がある一方で、専門的な器具・材料が揃わず苦労しました。後になって考えると条件が劣悪な中で、色々と考え工夫したことが、今の自分に大きな成果となっていると感じています。

先生の研究授業に参加させていただき、クリスマスにローストチキンを二十五羽焼いたり、クッキー、ケーキを卒業式後の茶話会のため多量に用意したこと等は、普通の教員では経験することが出来なかったことで、こうした大量調理の経験は、後々様々な体験に臆することなく立ち向かえて感謝しております。

一番印象に残っている仕事は、調理室の引越しでした。神学部移転の後に新校舎が建てられ、その三階に移り、当時としては素晴らしい設備の中で授業が進められるようになり、この最新の調理室の什器・備品を井口先生とご一緒に揃えるため、様々な場所を見学したり、資料を揃える準備をする中で、新しい器具・備品・什器の購入にも関わらせて頂いたことは、現在も本当に良い勉強になったと有難く思っております。

学生として二年間、そして助手として二年間、都合四年の間、常に井口先生のご指導をいただいたことが、その後の長い中学校、高等学校の教員生活の大きな基盤となり、人生勉強をさせていただきました。

私の今日あるのは、すべて井口先生のおかげと心からお礼申し上げます。先生は私の人生の母です。その先生に引き合わせて下さった神様に心から感謝いたしております。

卒業生通信Ⅰ

ある日の講義

竹田　朋子（国8回）

昨秋、還暦を迎えた。

短大を卒業して四十年経ったのだ。あまりピンとこない。しかし、やはり長い道のりだった。

短大時代、大城先生のある日の講義で「道」という題で何か書くようにとの仰せがあった。私はすぐさま、人生の道、という方向に思いが及んだ。しかし先生は、それを見透かしているように、「今朝、通ってきた道のことです。難しく考えないように」とおっしゃる。（えっ？　そういう道？）私は慌て、そちらの方がよほど難問だと頭を抱えた。何を書いたのか覚えていないが、あの時のことは折にふれ思い出す。

いま、あの課題を与えられたら、どう書くだろうか―。そんなことを考えながらペンを執っている。

私は九年前（平成十八年）、家業の旅館を閉じ、ふるさとを離れた。ダム建設のためである。ふるさとから二十キロほど離れた、夫の生家のある町に移転した。

移転を決断する際の心の葛藤よりも、移転後のそれの方が、何十倍も私には重かった。（これでよかったのだ！）と、呪文のようにいまも心の中で叫び続けている。

所用でふるさとに続く道を車で走ることがある。見慣れた風景が迫ってくる。ふるさとへの入口である吾妻渓谷添いの道にさしかかると、胸がいっぱいになり涙があふれる。やがて懐かしい駅舎がみえる。そこに、かつての私も姿をみるのだ。

日々、お客様を送迎し、上京し帰省する子どもたちを送り迎えした駅である。その先の、かつての我が家へと続く道―。ダムに沈んでも私の心底にはいつまでも健在である。

先日、スーパーの駐車場で、ふるさとの旅館のご主人と再会した。今後の事業の行方を尋ねると、「もう、倅の代だから」と多くは語らなかった。そして、ふるさとに向かう右手の道にハンドルを切り、私に手を上げ去って行かれた。

私は、逆の左手へとハンドルを切る。信号は青。まっすぐに私の帰るべき道へとアクセルを踏んだ。

大城先生がもし、この拙文を読んでくださったなら、天上からどう評してくださるだろうか。

竹田朋子　平成二十年度　群馬県文学賞を受賞（評論・随筆部門）
現在、評論・随筆部門の選考委員

桜恋しや・・・

井上　啓子（家27回）

「桜まつり」という言葉に惹かれ、車で一時間ほど走って駆けつけました。そこは閑静な住宅街の中にある公園。大きなテントが設置され、和太鼓の音が響きます。焼きそばの美味しそうな匂いもしてきます。さて、肝心の桜は…。よく考えれば分かることなのですが、一本も桜の木は無く、こちらの日本人の間で咲き方が桜に似ていると言われる「ジャカランダ」の木も一本しかありませんでした。

でも、そこに集う様々な国の老若男女は「日本の文化」を楽しんでいました。

実はこのような催しはあちこちで開催されており、年々盛況とのことです。個人的な見解ですが、日本の「美味しい」がアメリカで受け入れられているからだと思うのです。その中でも頭一つ抜きん出ているのがラーメンです。

私たちがこちらに来た頃はお店で食べるラーメンより、インスタントラーメンの方が美味しかった（ごめんなさい！）のですが、この三年ほどでラーメン専門のお店が競うようにでき、車で気軽に行ける範囲に十二、三軒あります。味もなかなかなもので、独自のこだわりの味や、日本全国各地の有名店も出店し、どのお店も現地の方に人気で結構繁盛しています。ですから、アメリカの方もお箸の使い方がとっても上手です。こちらの方に「お箸の使い方がお上手ですね！」という褒め言葉は逆に言ってはいけない言葉になってしまった感があります。

日系スーパーも日本人よりもアメリカ人の比率が高かったり、一〇〇円ショップ（こちらに進出してくれました！）も大人気です。

アメリカに居るのにあまり違和感を感じないのは、日本の文化が当たり前に周りにあるからなのでしょうね。

でも、やはり日本でしか味わえないものが、「桜の季節」です。アメリカ各地に日本のソメイヨシノがあるそうですが、でもやっぱり違います。日本で愛でる桜は最高です。年々桜が恋しいです。様々な理由で桜の頃に帰ることができないので、余計に恋しいのかもしれません。

「桜まつりに惹かれて」足が向いたのは、こんな気持ちからだったのでしょうか。

日本は気候の変動で春と秋が短くなっているようですが、満開の桜を身近に見られる幸せは何物にも代え難い宝ですね。

二〇一五年五月

写真はロサンゼルス着物クラブの今年のミス着物に選ばれたかよこさんです。私がこちらでお世話になっている美容師さんです。桜祭りで大モテでした。隣はひときわ小さい私です。（笑）

燦葉会　支部総会案内

西湘小田原支部　10月3日（土）
13時30分～　小田原キャンパス
湘南支部　10月17日（土）
12時30分～　平塚市内
県央支部　11月21日（土）
12時～　上海菜館
お問い合せは　燦葉会事務局
045（784）0310
※横浜中支部が今年度中に設立予定です

新学部紹介

今年の春から栄養学部と教育学部が開設されました。

栄養学部を開設いたしました

栄養学部長　倉沢　新一

香葉会には奨学金を始めとしていろいろお世話になっておりますことを、改めて感謝申し上げます。

人間環境学部健康栄養学科は、二〇一五年四月より栄養学部管理栄養学科となりました。五月三十日には、栄養学部の開設記念式典を教育学部と合同で行いました。式典には、短期大学学長でいらっしゃいました林

淳三先生と小玉敏子先生にもご出席いただきました。両先生ともお元気なご様子でした。また、林先生には、開設祝賀会でご祝辞を頂きました。

栄養学部には管理栄養学科のみが設置されている、一学部一学科体制です。入学定員は、一〇〇名で、現在十二名の専任教員と総勢八名の助手が在籍し、教育と研究を行っております。

栄養学部における栄養士養成は、昭和四十四年（一九六九年）に、関東学院女子短期大学の家政科食物栄養専攻に栄養士養成課程が設置されたのがルーツで、以来、四十六年間にわたり栄養士養成を継続しております。その後、短期大学の発展的な改組により、平成十四年（二〇〇二年）に、関東学院女子短期大学家政学部食物栄養専攻の後継として、関東学院大学人間環境学部健康栄養学科が設置されました。栄養士養成課程は、人間環境学部の健康栄養学科として入学定員一〇〇名に増員し、これまでの栄養士養成課程に加え、新たに管理栄養士養成課程として発足いたしました。そして、栄養学部管理栄養学科の施設設備は、前身である女子短期大学家政科および人間環境学部健康栄養学科施設設備を受け継いでおります。

栄養学部管理栄養学科における教育の特徴は、学科名にありますように管理栄養士の養成課程です。同時に、栄養士養成課程、食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程、食育の重要さに鑑み、栄養教諭免許が取得できる教職課程でもあります。

これからも、栄養学部の教育にご理解とご支援をお願いしますとともに、卒業生を後輩として見守っていただけますようお願いいたします。

教育学部開設のご挨拶 ～これからの保育者・教育者の養成と育成～

教育学部　学部長　土谷みち子

香葉会の皆様には、初めてご挨拶させていただきます。今年度より開設された教育学部で学部長を務めることになりました土谷と申します。

教育学部は、二〇〇二年関東学院女子短期大学を改組して誕生した人間環境学部から、さらに十三年を経て、人間発達学科が学部として独立して誕生しました。短期大学時代から子どもの主体性を尊重した伝統的な教育を基礎として幼稚園教諭・保育士を養成してきましたが、二〇〇八年より小学校教諭養成課程を併設し、教育学部として発展することになりました。先輩の皆様には、保育・教育現場で指導的な役割を担っている方もいらっしゃることでしょう。

この度、教育学部開設にあたり、改めてキリスト教の精神に基づき豊かな人間性を培うことを教育の基本理念とし、そして人間発達学科として蓄積してきました人間の生涯発達を見据えて、子どもの成長と共に保護者にも共感的に寄り添う保育者・教育者を養成していきたいと考えます。しかしながら、今日の急速な少子化や家庭、地域を取り巻く環境の急変に伴い、子ども達の安心・安全が脅かされ、子どもの心とからだの育ちのバランスが崩れている問題、また小学校以降の教育現場における不登校やいじめ等の課題等々も指摘されています。これらの現代的な課題に対応するために、教育学部こども発達学科では、特に実践的な指導力を有した保育者・教育者を育てていきたいと考えていますが、大学という養成機関ばかりでなく行政関係者はもとより、家庭や地域とも連携しつつ、行動できる保育者・教育者の育成が求められていると思います。

今後新学部では学院内連携や地域からの支援を含めて学生を育成し、そして教員も含めて地域の先生方との交流を深め地域貢献もしていきた

学院内こども園における学生の実践的な学び

いと思います。
　卒業生の皆様におかれましては、学院内のこども園や小学校などで主体的な学びを続けている学生たちを応援していただけますと幸いです。

卒業生通信Ⅱ

二〇一五年六月四日に金沢八景キャンパスの礼拝堂の礼拝にて女子短期大学国文科卒業生の中村啓子さんが学生達に「言葉の力」についてお話をしてくださいました。

中村　啓子（国1回）

　聖書の創世記第一章一節～三節には「初めに、神は天地を創造された。……神は言われた。『光あれ。』こうして光があった。」とあります。ここに「言われた」とあるように、神はこの天地を言葉を持って創られました。
　私たちもまた、私たちの世界を言葉で作っていると言えるでしょう。
「ありがとう」という感謝の言葉を発するか、否定的な言葉を発するかで、自分を巡る世界が違って来るのです。
　トップアスリートはマイナスな言葉を発しません。次の壁を越えるために前向きな発言をします。プロゴルファーのタイガー・ウッズはライバルのカップインを祈り、外すことを願わないという有名な話があります。「隣人の幸せを願い、自分の世界を高めて行く」という発想です。

　日本で、ツイッター上最も多く使われている言葉は「疲れた」だそうです。
「やる気」は、大脳の真ん中にある側座核が働いて脳内物質を分泌することで呼び起こされます。しかし、ここは、何らかの刺激がないと、働かないのです。「疲れた」ではなく、「やるぞ！」という言葉を発してみましょう。
　更に、自分が発する言葉が脳に与える影響についてお話ししましょう。脳内の大脳新皮質は、私たちの語る言葉の主語を確認することが出来ますが、大脳旧皮質は、言葉の主語を確認することが出来ません。ですから、人に対して「うざい」などという否定的な言葉を発すると、自分に向けて言われたのと同じダメージを受けてしまうのだそうです。
　私は、幼い頃からアナウンサーになりたいと強く願い、出会った人に「アナウンサーになりたい」という言葉を発し続けて来ました。その結果、不思議な方法で協力者が現れ、私の前にナレーターへの道が開けて来ました。しかし、仕事が順風満帆だった三十九才で突然ガンに罹った私は、「憧れの職業についただけでは満足して死ねない。愛するということを知らなければ」と気づかされ、教会に通うようになりました。そして、今、クリスチャン作家三浦綾子さんの作品の朗読を通して「愛とゆるし」を伝えることをライフワークとしています。
　ふりかえると、私の人生をコントロールなさっている神の存在をはっきりと知ることが出来ます。神様は、いつも私たちの存在を喜び、呼んでおられます。
　私たちがその存在を喜び、感謝し、良い言葉を語ることが出来ますように。神様が、私たちの心を癒やしてくださり、希望で満たして下さいますよう祈りましょう。

（要約　校友課）

●中村啓子さんプロフィール
富山県立山町出身。ナレーター。関東学院女子短期大学国文科卒業。NHK／ETV特集、NHK／BSフォーラムなどの番組、NTT時報、番号案内、NTTドコモ留守番サービスなど、生活の中で親しまれている声の主。二〇〇八年日本オーディオ協会より「音の匠」に顕彰され、現代標準語の基準となっている。
プロのためのナレーションスクール「OKEIKO」主催。

クラス会報告

幼教1期B組

岡崎　尋子（幼1回）

　二〇一四年六月二十八日（土）十五名が集まり、毎年恒例となったクラス会を行いました。暫く途切れていたクラス会がまた復活するきっかけとなったのは、短大閉校の際に学校で行われた幼教卒業生の集まりでした。在校時から仲の良かったB組だけあって、多くの卒業生が出席しすぐに話がまとまりました。
　今年度、還暦を迎える私達ですが、会えば気分はすっかり学生時代へ逆戻り。「ちっとも変わらないね！」と話が弾みます。仕事を続けている人、子育て、孫育て中の人、ゆったりと第二の人生を歩み出した人等々様々ですが、盛り上がったのが、子育て支援や認定こども園の話だったのは、やはり幼教卒業生らしい所でしょうか。このクラス会で何より嬉しいのは、大きな病気をしても皆に会う事を目標に、元気を取り戻していく友の顔を見られる事です。お互い良い事も辛い事も共有できることに感謝しつつ、お開きの頃には何十歳も若返り、二次会へ。（と言ってもお茶ですが）
　毎年六月第四土曜日・場所も毎年同じ、横浜駅西口キャメロットジャパンです。多くの皆様とお会いできますことを楽しみにしています。

国文科四回同期会報告

和田　康子（国4回）

「いつやるか?今でしょ!」この流行語が繰り返しテレビで流れていた昨年。私の頭の中も「卒業以来、初めてのクラス会いつやるの?」「今しか無いでしょ…」こんな言葉がぐるぐる回りました。とはいえ卒業から四十三年経つクラスメートの住所を調べることから難題は多く私にはとても無理です。

そこで、現役学生時代から、学友会で活躍し、今は香葉会の「ビーズ刺繍講習会」の講師をし、ご自分でビーズ刺繍教室を主宰して、お忙しい高石さんに無理やりのお願いをして色々教えて貰いながら準備しました。

当日は、他所から見れば初老の婦人の集会に見えても、私達本人は、昨日卒業式が終わったばかりの女学生のように賑やかに話しが弾み、そのまま来年のクラス会の予定が立つほどでした。

同窓会には、時間という隔たりは無いと分かりました。これからは益々会う機会が増えそうです。このような会を開けた事を香葉会を支えてくださる役員の皆様のお蔭です。ありがとうございました。

開催場所　横浜スカイビル『梅の花』にて

国文科四回Bクラス会

国文科四回Bクラスが平成二十七年五月二十八日(木)に、学校見学を兼ねて行いました。昨年の学年会の集まり時に、「懐かしい校舎を見てみたい。」と云う声が上がり、今回、香葉会・法人総務課交友課・関学サービスの方々の助けをお借りして、学院内を散策。お昼は学食でランチ、安さと美味しさで感激しました。教会では、懐かしい讃美歌を口づさみ、もう女学生に戻っていました。

来年も、また会いましょうの合言葉で四月二十一日に横浜でBクラス会を企画しております。

卒業生の皆様も是非、お時間がございましたら、懐かしい母校に足を運んでみたらいかがでしょう!!(幹事)

企画報告

学校探検ツアー

山本　有美（国31回）

晴れ渡った秋空が心地良い日でした。平成二十六年十月二十五日(土)、私は香葉会主催の「学校探検ツアー」に参加しました。歩き慣れた海沿いの道を歩いてきて、元ルツ寮前に近づいてビックリ!!　近未来的な人間環境学部に変わっていたからです。

「そうだった、短大も大学に改組十周年記念事業されたんだっけ。卒業して十七年も経ったんだ。」と一人あれこれ想いを馳せました。

今回は人間環境学部と看護学部と室の木チャペル、建築・環境学部を見学しました。

まずは人間環境学部の建物。元ルツ寮と元図書館のあたりに建っていて、短大時代と違うのは、研究室・ゼミ室があるところです。CAD・CG演習室といって、製図をするときに使う機械の部屋もありました。

一番印象に残ったのは人間環境デザイン学科演習室です。そこには世界の有名デザイナーが制作した椅子が随所に並べられていて、参加した香葉会の皆さんと椅子の座り比べをして楽しみました。

次に看護学部を見学しました。実習室には沢山のベットと車椅子が並んでおり、私は目を閉じて看護学生達が実習に励む様子を想像し、ここから旅立っていく学生達が社会の皆さんのお役に立つと思うと、とても頼もしく思えました。

その次に室の木チャペルを見学しました。ここは私の入学式と卒業式当時とほとんど変わっておらず、チャペルの椅子に腰掛けたら、十七年前にタイムスリップしたかのような感覚になりました。

それから、建築・環境学部を見学しました。一階学生ホールの地中熱ヒートポンプは、これからの時代を考えた、環境に優しい、すごいシステムだと思いました。

大学構内を見学した後、参加した香葉会の皆さんで、タニタ食堂監修レシピのランチを食べました。野菜のスープが程良い味付けで美味しかったです。

そして、昼食後は大学の校舎をバックにツアーに参加した皆さんと記念写真を撮って解散しました。

最後に関東学院大学の未来と香葉会の益々の発展をお祈り申し上げます。

(編集より：小玉先生は別の会合で大学にいらしていました。)

クリスマス小物づくり講習会に参加して

野口　弘子（英12回）

この度は運良く帰国中に、マカロニで作るクリスマスリースの講習会の知らせを見て参加を申し込みました　それに中学から短大迄、関東学院で八年間過ごしたので懐かしさもあり、その日を首を長くして待ちました。いよいよ当日、長年通学したバス停の内川橋で下車して先ず付近

の変化に気づきました。そして校門に着き目を見張りました。校庭、礼拝堂そして校舎と全く変わり昔の面影はありませんでした。卒業してから五十年以上もたつのですから……。時の流れを強く感じました。とてもモダンで素敵なキャンパスになっていました。家を早めに出ましたが、校門に入って目的の校舎さえ見つからず、周りの人達に聞きながらウロウロ。そうこうしている中に、始まる時間の十時が過ぎてしまい、仕方なくクラスに電話したりしてやっと着きました。十五人程の方達がいらっしゃり、昔の頃を話し合いながら、お互い初対面とは感じられず、リラックスした雰囲気の中で作り始めました。先ずいろいろ形の違うパスタを選び、思い思いにリース型に切った土台に貼り、なごやかな楽しい時間が過ぎて行きました。貼り終わったリースにスプレーをして頂くと、丁度お昼の時間になり、乾く間に大学の学生食堂に案内され、そこでは和気あいあいとした楽しい昼食のひとときを過ごしました。さてクラスに戻るとスプレーも乾き、思ったより素敵なリースになりそうで、リボン選びもわくわくで出来上がりが楽しみでした。金色にスプレーされたリースに赤や緑色のリボン、そして柊の葉と実をつけ、最後に金のベルを吊るして可愛い華やかなリースが完成しました。

本当に楽しい一日でした。クリスマスの度に楽しく作ったこの日を思い出す事でしょう。今回の様におしゃべりしながら、又お互いにほめ合いながら作った事が楽しさを増したのだと思います。又この様な機会がありましたら、ぜひ参加したいです。

はじめての交流会

横澤　智子（英47回）

十一月二十九日（土）、香葉会の交流会が室の木キャンパスでありました。平成二十六年二月に長男が生まれ、新米ママとして子育てに追われる日々を送っていた私でしたが、このころには、息子と二人きりの外出にもようやく慣れ始めたので、思い切って交流会に参加することにしたのでした。

子連れということもあり、少し早めに着くように来ましたので、受付時間までまだ時間がありました。そこで、私は、学生食堂へ向かい、持参した昼食を食べました。食堂は、学生時代と変わらない見慣れた風景で、私の卒業と同時に時間が止まっていたかのように感じられました。食堂での滞在時間は短いものでしたが、学生時代の思い出が一気によみがえり、懐かしい思いで本当に胸がいっぱいになりました。

チャペルでは、他の参加者の皆さんと一緒に、讃美歌を歌いました。パイプオルガンの演奏に合わせて声を出していると、心の中まですうっと澄み切っていくのが感じられました。長男は、私のお腹の中にいた時から、クラシック音楽のCDや、私自身のピアノの演奏や歌声や讃美歌を聴いて育ちました。そのせいか、長男は、チャペルでオルガンの演奏や歌声をおとなしく聴いていました。

その後、香葉会室に場所を移し、お茶を飲みながら参加者の皆さんと交流を深めました。多様な年代の方々と親しくお話しさせていただき、楽しいひとときを過ごすと共に、改めて、同窓の強い絆を実感しました。

今回は、子連れだったこともあり、いろいろと不安を抱えながらの交流会参加でしたが、本当に楽しく、参加して良かったと思いました。今後も、機会に恵まれればぜひ参加したいと思います。

山手西洋館散策報告

渡邊多賀子（燦葉会）

建築科の椙木先生の引率で、クリスマス飾りで華やいだ山手の洋館の散策をしてきました。

山手二三四番館はフランス風、ベーリックホールはスペイン風、エリスマン邸はイタリア風をそれぞれイメージして、どこも美しく飾られていました。また、先生には建物の構造についても教えていただきました。中でも、マントルピースの煙突の大きさによって、部屋の大きさの見当がつくというお話があり、サンタクロースが煙突からやってくるというのもきちんとした由来がある話なんだなと、興味を覚えました。

カトリック山手教会に着いた頃には、日も翳り、夕暮れに差し掛かって少し寒くなってきました。教会の内部はちょうどクリスマスシーズンで、祭壇の左側には、キリスト生誕の飾り付けがされていました。

その後、バスに乗って中華街入口に移動して。中華街の肉まんを横目でチラリと見つつ、山下公園からシーバスに乗って、横浜に向かいました。シーバ

スに乗ると、ちょうど豪華客船が停泊していたり、キングとクイーンの塔が陸側に見えて、昔の船員さんもこうして客船や塔を眺めていたのかなと、感慨深かったです。西側に暮れなずむみなとみらいの景色、東側につばさ橋の脇にぽっかり浮かぶ満月と、美しい風景を堪能する事ができました。

びっくりしたのは、清木先生が恐るべき速さで、みなとみらいやつばさ橋の風景を、スケッチしていらっしゃいました。その美しさ、正確さは、さすがだな、と思いました。

楽しかった散策はあっという間に終わってしまいました。とても楽しかったので、また、来年も参加したいです。

清木先生、幹事さんの皆さん、どうもありがとうございました。

ビーズ刺繍講習会

村岡　愛子（家12回）

香葉会企画として平成二十四年一月から参加しています。国文科四回の高石和枝さんに講師としてお願いして始まりました。

今までに化粧ポーチ・ブローチ・鏡などを作りました。実用的な作品が出来上がり楽しんでおります。今回はパス入れでしたが、デジカメ入れにピッタリ。カメラを持ち歩き、出した時に「きれい！」と周囲の方に言われて喜んでいます。回を重ねるごとに針の運びと刺し方を習得し、年1度の会を出来上がりの達成感を味わっています。初心の方もご一緒に楽しみませんか？

燦葉会・香葉会合同 西湘小田原支部会

九月二十七日（土）支部総会・小山巌也副学長の講話「現在の関東学院について」・懇親会と盛り沢山の支部会でした。

香葉会の関さん（英18回）が副会長として頑張っていて下さいます。西湘小田原地区の会員の皆様、次回はご参加頂けると嬉しいですね。

編集後記

今年も「香葉」発行の時がきました。昨年より早い発行となりました。企画を早くから行い、会員の皆様と沢山お会いしたいと思います。今年も皆様と和気藹々と旧交を温めて頂くような企画を考えてみました。お友達・ご家族・お一人でもご参加下さることを楽しみにしています。日頃から香葉会を支えて下さる皆様に感謝しています。

ご意見・ご感想やエッセイや詩などご投稿をお待ちしています。香葉会は皆様と共に歩んで行きたいと思います。（お）

香葉会　年会費・賛助金　納入者名簿

皆様のご厚意により、平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）のご寄付は792,000円と成りました。

香葉会の会費の一部として有効に使わせて頂きます。皆様のご協力に感謝し、今後ともよろしくお願いします。（敬称略・順不同）

【教職員】
小玉　敏子
加藤　紀子
大河原幸男
矢嶋　道文
帆苅　猛
岡田　宣子
井口安喜子
（令一郎）
【特別会員】
益　昌子
【女専】
渥美　裕子
大谷　幸子
出　榮美子
内田　駒子
【女高】
江口　静子
大島　智子
三澤　葉子
古都　綾子
古川　鈴子
【英Ⅱ】
井上　春水
飯尾　恒子
山本　長生
竹内恵美子
古内　節治
何　文能

【英文】
高橋　静子
古城　房子
柳生　二三
菅原千代子
馬越千恵子
児玉三重子
影山　直子
梅田　優子
荒井　敬子
小濱　朝子
飯田　冴子
長崎　洋子
勝　明子
土屋　幸枝
松野　きよ
永島　敦子
吉原千恵子
水野　雅子
松野トシ子
高橋　咲子
田中　久恵
鈴木　信子
松友　明見
邊見　裕子
鈴木　葉子
露木　宏子
加藤　和子
古野　祐子

溝口　泉
志賀田ミチ
辺　洋子
伊藤　陽子
柳田　久子
森谷久美子
石　美智子
橋本登喜江
坂上　朋子
小野江まち子
佐藤　晴恵
谷田部敦子
吉川　和子
赤沢　茂子
柳下　節子
渋谷　敦子
武松美恵子
中川　あや
古島美由紀
高重久美代
磯野　澄子
野尻　良子
森　静恵
須山　和子
中村　陽子
千葉　一枝

横山久美子
岡田　温子
萩原　久子
南澤　宣子
齊藤　一恵
増田安喜子
坪田　良子
市山久美子
内田　康子
岡崎　敬子
福井　英子
高石　和枝
若林三恵子
森田吉世江
渕上　龍美
照井かおり
伊東みゆき
今井　恭子
渡美　彰子
百合本真弓
森　禎子
金本　孝子
福本　泰加
上野亜希子
【幼教】
深海　生子
芝　久江
森下　真理
小室　卓重
蔭山　美香
土屋　知里
神崎　直子
高橋　裕子
【経情】
星　友子
仲村恵理子
石井キヨミ
近藤　鶴子
福崎　浩子
祖父江有加
渡美　彰子
百合本真弓
照井かおり
森　禎子
金本　孝子
福本　泰加
上野亜希子
【幼教】
深海　生子
芝　久江
森下　真理
小室　卓重
蔭山　美香
土屋　知里
神崎　直子
高橋　裕子
【経情】

【国文】
山口　佳子
横田　清江
戸田　正子
蜂谷　弘子
小泉小夜子
松上　尊代
今井　恭子
渕上　龍美
照井かおり
伊東みゆき
森　禎子
金本　孝子
福本　泰加
上野亜希子
【幼教】
深海　生子
芝　久江
森下　真理
小室　卓重
蔭山　美香
土屋　知里
神崎　直子
高橋　裕子
【経情】

重田　和子
足立　求子
佐藤　貞子
古賀　美代
松上　恵子
今井　尊代
渕上　恭子
若林三　龍美
森田吉世江
岡崎　敬子
伊東みゆき
山崎　禎子
二宮　恵子
土山　敬子
村岡　典子
高齋香代子
前出　愛子
山野　郁子
長橋　衣美
岡崎　正恵
木下美恵子
寺内　雅子
五十嵐増枝
山口恵美子
森　泰子
藤井るみえ
木村　啓子
岩本美和子
守屋　和子
清水　智子

【国文】
山口　佳子
横田　清江
戸田　正子
蜂谷　弘子
小泉小夜子
松上　尊代
今井　恭子
渕上　龍美
照井かおり
伊東みゆき
森　禎子
金本　孝子
福本　泰加
上野亜希子
【幼教】
深海　生子
芝　久江
森下　真理
小室　卓重
蔭山　美香
土屋　知里
神崎　直子
高橋　裕子
【経情】

【家政】
蔵田あけみ
渡辺　冴子
横溝喜代子
別府　弘子

佐生　貴子
上野　美奈
並木あや子
黒田　聡子
榎本美和子

阿部美美子
小野澤日出子
柳田美智保
矢守　光子

平成二十六年度決算・平成二十七年度予算

平成十五年三月の卒業生の会費を最後に、香葉会の会計は皆様の年会費・賛助金をたよりに頑張っています。年間にかかる費用の多くは、機関紙『香葉』の発送にかかります。年会費・賛助金に是非、ご協力をお願い致します。

関東学院女子短期大学香葉会

収入の部	H26年度決算	H27年度予算
年会費・賛助金	792,000	600,000
特別会計繰入金	1,500,000	1,100,000
特別基金Ⅰ繰入金	500,000	500,000
特別基金Ⅱ繰入金	50,000	40,000
雑収入	23,598	20,000
前年度繰越金	841,377	1,042,295
合計	3,706,975	3,302,295
支出の部	**H26年度決算**	**H27年度予算**
通信費	1,469,955	1,600,000
印刷費	672,622	700,000
広報費	0	10,000
会議費	89,485	100,000
交通費	121,002	200,000
消耗品費	6,696	20,000
ソフト費	13,534	20,000
人件費	118,150	400,000
香葉賞費	34,656	40,000
関東学院同窓会費	30,000	30,000
慶弔費	88,200	100,000
雑費	20,380	50,000
予備費	0	32,295
小計	2,664,680	3,302,295
次年度繰越金	1,042,295	0
合計	3,706,975	3,302,295